

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

研究機関名： 弘前大学医学部附属病院リハビリ
テーション科
研究責任者： 田村 一平

当院では患者さんの試料・情報を利用させていただき、下記の臨床研究を弘前大学大学院医学研究科倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

本研究への協力を望まれない患者さんは、下記連絡先までお申し出くださいますようお願いいたします。

臨床研究名称 心臓・胸部血管疾患に対する全身麻酔手術後の認知機能障害と遷延する摂食嚥下障害との関係についての過去起点コホート研究

研究の目的

手術のあとに早く体を起こして動くことは、体力の低下を防ぎ、呼吸や血のめぐりを良くし、気分の回復にもつながります。ところが、心臓や大血管の手術を受けた後には、注意力や記憶力が一時的に下がることがあり、それがリハビリを進めにくくすることがあります。さらに、食べたり飲んだりする力が弱まると、むせや肺炎、栄養不足などにつながり、退院や経口摂取の開始が遅れてしまうこともあります。今回の研究では、手術後の頭の働きの変化と食べる力の回復の関係を調べ、より早く安全に食事ができる方法を探しています。その関係性が証明された場合、術後の注意力低下を早期診断することで、摂食嚥下障害の遷延化を回避でき、より早期から経口摂取が可能となることによる入院期間の短縮や自宅退院率の改善につながることを期待しています。

研究実施期間 実施許可日 ～ 2027 年 12 月 31 日

対象となる方 2021 年 9 月 1 日から 2025 年 8 月 31 日までに当院にて、冠動脈バイパス・冠動脈バイパス+弁手術・心臓弁手術・急性大動脈解離・大動脈破裂・大動脈瘤(解離含む)待機手術のいずれかに対する全身麻酔手術を受け、術後 GICU に入室した患者さん

利用させていただきたい試料・情報について

年齢、性別、身長、体重、BMI、主病名、併存疾患名、現病歴、ICU 入室中の ICDSC、退院時の摂食状況、等

ICDSC とは、Intensive Care Delirium Screening Checklist の略で、ICU など、せん妄をスクリーニングするために用いられる評価ツールです。

また、上記の情報を得る上で、診療録の他に、Japanese Intensive care PATient Database (JIPAD、日本 ICU 患者データベース)に登録のデータを利用させていただきます。

外部への試料・情報の提供

収集した情報は、個人が特定できないよう仮名化したうえで学会等で公表することがあります。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合は下記へご連絡ください。患者さん／その代理人の方から、試料・情報の利用停止を求める申し出があった場合は、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本 件 連 絡 先	所 属：弘前大学大学院医学研究科リハビリテーション医学講座・教授 氏 名：津田 英一（つだ えいいち） 電 話：0172-39-5463 E-mail： eiichi@hirosaki-u.ac.jp
----------------------	--